

議案第 5 号

令和 6 年度板橋区登録文化財の決定及び登録文化財の抹消について
上記の議案を提出する。

令和 7 年 2 月 1 4 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 長沼 豊

令和 6 年度板橋区登録文化財の決定について

東京都板橋区文化財保護条例（昭和 5 8 年板橋区条例第 1 6 号）第 4 条第 1 項
の規定に基づき、下記のとおり新たに文化財を登録する。

記

- 1 板橋区登録文化財として新たに登録するもの 3 件
 - （1）有形文化財（典籍） 中台延命寺所蔵大般若經 附經櫃・經箱
 - （2）有形文化財（歴史資料） 十度ノ宮
 - （3）有形文化財（考古資料） 松月院境内遺跡第 1 地点出土中世遺物
- 2 板橋区登録文化財を抹消するもの 1 件
 - （1）無形文化財（工芸技術） 表具

（提案理由）

板橋区文化財保護審議会から、板橋区登録文化財の登録について答申があったため、これを承認し文化財を登録する。また、板橋区登録文化財保持者が逝去したため文化財登録を抹消する必要がある。



令和7年1月22日

東京都板橋区教育委員会 様

板橋区文化財保護審議会

会長 松崎 憲三



板橋区文化財の登録について（答申）

令和6年8月7日付け6板教生第312号の2で諮問のあった標記のことについて、板橋区文化財保護審議会で本日令和7年1月22日に審議した結果、下記のとおり意見が一致したので答申します。

記

- 1 板橋区文化財として新たに登録するもの 3件
 - (1) 有形文化財（典籍）
中台延命寺所蔵大般若經 附經櫃・經箱
 - (2) 有形文化財（歴史資料）
十度ノ宮
 - (3) 有形文化財（考古資料）
松月院境内遺跡第1地点出土中世遺物

令和6年度板橋区文化財保護審議会 答申内容一覧

1 新たな文化財の登録

番号	名称	所在地 または居住地	所有者・ 管理者または 保持者	種 類	内 訳	来 歴 ・ 内 容 及 び 諮 問 理 由
1	中台延命寺所蔵大般若経附経櫃・経箱 (なかだいえんめいじしよぞうだいはんにゃきょうつけたりきょうびつ・きょうばこ)	板橋区中台3-22-18	宗教法人延命寺(えんめいじ)	有形文化財 (典籍)	経典600帖・経櫃3合・経箱60点	<p>本資料は、中台延命寺に伝わる「鉄眼版大般若波羅蜜多経六百巻(てつげんぱん だいはんにゃはらみったきょうろつびやくかん)」(「鉄眼版大般若経」と本資料の収納箱(経櫃・経箱)からなる。</p> <p>資料の成立は江戸時代後期で、形状は折本(おりほん:紙を蛇腹状に折り1冊の本にする装丁)である。令和になり、虫食い部分の修理、表紙や収納箱が新調された。</p> <p>本資料の最大の特徴は、中台延命寺およびその周辺地域の人々から奉納された大般若経および収納箱ということである。経典の最初の頁に、奉納者の記録がある。加えて、記録の内容は「○○村 □□(奉納者名)」「△△村中」など、その巻の奉納者の居住地と個人名・複数名、もしくは村で奉納した場合は村名が書かれている。奉納者の分布範囲は、中台延命寺を中心に半径約4～5kmである。例えば【板橋区域】中台・蓮沼・小豆沢・前野・志村・徳丸・赤塚・上板橋など【北区域】赤羽・稲付・十条など【練馬区域】練馬・石神井・愛染院(中台延命寺の中本山)など【埼玉県域】戸田・新倉などが確認され、中山道・川越街道沿いに集中して展開しており、奉納者は主に地域の名主や村人である。</p> <p>本資料は、江戸時代後期における、中台延命寺を信仰する地域や仏教文化の広がり、地域による寺院の復興支援の実態、寺院の組織関係を明らかにする貴重な地域資料である。</p>
2	十度ノ宮 (じゅうどのみや)	板橋区舟渡2-18	舟渡氷川神社(ふなどひかわじんじや)	有形文化財 (歴史資料)	1基	<p>「十度ノ宮」が祀られている舟渡氷川神社は、戦後に誕生した舟渡町によって設立され、昭和41年(1966)に神社庁に承認された神社である。</p> <p>当社は、19世紀前半の文政年間に成立した『新編武蔵風土記』の蓮沼村の氷川神社の記述に、「金剛院持ニテ、古へ村内西南ノ方ニアリシガ、数度ノ洪水ニ押流サレ、今ノ処ニ流寄コト十度ナリシカバ、爰ニ塚ヲ築、榎ヲ植テ社ヲ移ス、土人今モ十度ノ宮トモ称セリ」とある。『新編武蔵風土記』によれば、舟渡地域は江戸時代から荒川の氾濫に見舞われており、十度ノ宮はその洪水被害の歴史を物語る資料として知られていた。</p> <p>現在は、笠塔婆型の石祠として残され、正面には(梵字)と「奉修造立氷川大明神御宝前」の銘文が、左面には「万治二己亥年六月十五日」の銘文があり、万治二年(1659)にはあったものと考えられる。また、右面には「寛保三癸亥年十二月吉日 武砦豊島郡蓮沼村 別当金剛院」とあり、寛保三年(1743)には真言宗の金剛院が管理していたことがわかる。</p> <p>現在地に移る前は、舟渡二丁目8番の早部ガソリンスタンド前にあったが、昭和39年に現在の氷川神社境内に遷された。</p> <p>「十度ノ宮」は、江戸期以降の荒川の氾濫によって大きな影響をうけた舟渡地域の歴史を物語り、水害の記憶を後世に伝えることができる貴重な歴史資料である。</p>
3	松月院境内遺跡第1地点出土中世遺物 (しょうげつ いんけいだいいせきだいいちてんしゅつどちゅうせい いぶつ)	赤塚8-4-9 (出土地)	板橋区教育委員会	有形文化財 (考古資料)	出土遺物計51点(板碑33点、宝篋印塔塔身1点、宝篋印塔基礎8点、五輪塔火輪2点、陶器7点)	<p>松月院境内遺跡は、北に荒川、南から東に前谷津川、西には白子川と三つの河川に囲まれた、東西に長い台地上に位置する。かつて大堂の七堂伽藍を構成していた寺院群の一祠堂とされ、延徳年間(1489～1491)頃は宝持寺と呼ばれていた。もとは真言宗の寺院であったものを千葉自胤(これたね)が曹洞宗に改宗させ、松月院と改めたといわれている。現在も墓地の一角には、千葉氏一族の墓と伝えられる宝篋印塔(ほうきょういんとう)などが数基所在している。</p> <p>昭和59年(1984)から同60年にかけて、松月院が計画していた書院と庫裏の建て替え工事に伴い、発掘調査が実施された。この調査地点を、松月院境内遺跡第1地点と呼ぶ。発掘調査で確認された中で、中世期の遺構としては、地下式坑2基と、板碑や台座を伴うピット(100号)1基、板碑遺構3基を検出している。これらの遺構は、寺院あるいは墓地に関連する遺構と考えられ、今回区登録文化財として諮問した資料は、この遺構群から出土した一括資料である。</p> <p>当資料には14世紀前半から15世紀後半までの紀年銘をもつ資料があり、相伴遺物である常滑焼の甕の破片の年代も、同時期とみられる。これらの資料は、千葉氏が入部したと伝わる康正2年(1456)、あるいは曹洞宗に改宗した延徳4年(1492)以降に生じた、地域社会の変化を類推し得る資料と考えられる。紀年銘のある宝篋印塔や板碑が遺構内に埋没した年代を厳密に絞り込むことは難しいが、宝持寺から松月院へと変わった前後であることを考えるうえで、貴重な考古資料である。</p> <p>また、未だ定説を得ていない板碑の終焉過程や中世石造物が埋められた理由について、進行資料の廃棄やその方法を考えるための一事例となる。中世石造物研究の進展に寄与できる、貴重な考古資料である。</p>

【参考】〈資料画像〉令和6年度文化財保護審議会 答申内容一覧

案件1 中台延命寺所蔵大般若経 附経櫃・経箱

「大般若経」

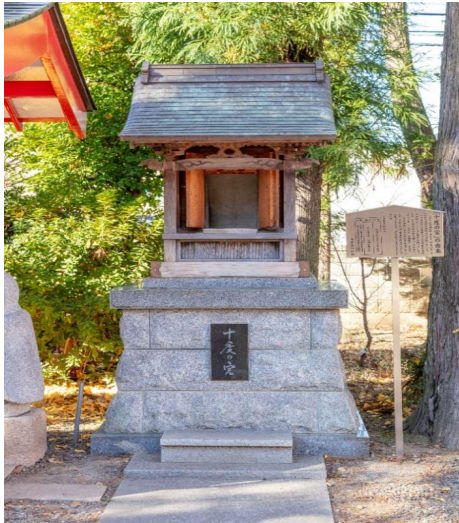


経櫃・経箱

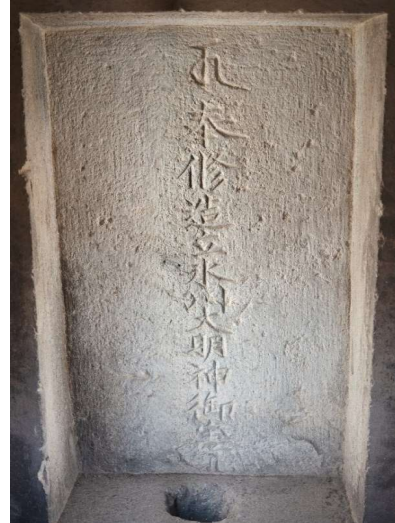


案件2 十度の宮

外観



(内部) 石祠



案件3 松月院境内遺跡第1地点出土中世石造物

100号ピット 遺物出土状況



1号板碑遺構 遺物出土状況



令和6年度登録文化財 概要

●中台延命寺所蔵大般若経 附 経櫃・経箱 (区登録有形文化財・典籍)

板橋区中台にある延命寺は約400年前に始まった中台村の寺院です。火事で寺院が焼けてしまいましたが、中台村や周辺の人々によって復興されました。

「中台延命寺所蔵大般若経 附 経櫃・経箱」は、「鉄眼版」という種類の大般若経600巻と入れ物のセットです。今から約170年前、周りの村の人々から延命寺に贈られました。その歴史がわかる理由は、各経典に「〇〇村 □ □ □」(贈り主の名前)と書かれているからです。中台村を中心に、現在の板橋・北・練馬区や埼玉県域の人々から贈られました。これが、この資料の最も大事な特徴です。

大般若経600巻や箱のセットは、高級な材料を使い、職人が一つずつ手作りするので高価なものでした。江戸時代後期に、仏教や延命寺を大切に思う人々が協力し、延命寺の復興のために贈ったことがわかる重要な歴史資料です。



図1

中台延命寺所蔵

鉄眼版大般若経 第1巻



図2

旧経櫃・経箱

(中台延命寺所蔵)

●^{じゅうどのみや}十度ノ宮（区登録有形文化財・歴史資料）

板橋区舟渡二丁目 18 番地にある^{ふなどひかわじんじや}舟渡氷川神社に「十度ノ宮」は^{まつ}祀られています。

このお宮は、今から二百年以上前に書かれた『^{しんぺんむさしふどき}新編武蔵風土記』という資料に、「このお宮は、昔から蓮沼村の西南にあったが、何度も^{こうずい}洪水で^{おしなが}押流されて、今の場所に^{ながれよ}流寄せられることが十度にも及んだので、ここに塚を築き、^{えのき}榎を植えて神社とした。地域の人は今でも「十度ノ宮」と呼んでいる」と記されており、当時から広く知られたお宮でした。

その形は、笠がついた石の^{ほくら}祠で、正面に「奉修造立氷川大明神御宝前」、左面に「^{まんじ}万治二^{きがい}己亥年六月十五日」、右面に「^{かんぽう}寛保三^{きがい}癸亥年十二月吉日 ^{ぶしゅうとしまのこおりはすぬまわら}武砦豊島郡蓮沼村 ^{べっとうこんごういん}別当金剛院」の文字がそれぞれ^ぼ彫られています。この文字により 1659 年（万治二年）には少なくとも「十度ノ宮」がまつられていたことがわかります。

「十度ノ宮」は、洪水によって歴史資料がほとんどない舟渡地域に今も残っている貴重な資料であり、自然災害とともに生きてきた人々と、その歴史を後世に伝えることができる重要な資料です。



●松月院境内遺跡第 1 地点出土中世遺物（区登録有形文化財・考古資料）

赤塚八丁目にある松月院^{しょうげついん}の境内では、今からおよそ 40 年前、庫裏^{くり}の建て替え前に発掘調査が行われました。地面の下を慎重に掘り出して調べた結果、旧石器時代から江戸時代まで、当時の人々が生きていた「あかし」が残っていることがわかりました。

調査の大きな成果としては、1400 年～1500 年ごろにつくられた、中世の石造物がたくさん出土したことです。特に、2 m ほどの大きさの穴から、五輪塔^{ごりんとう}や宝篋印塔^{ほうきょういんとう}、そして板碑^{いたび}などが出土しました。

五輪塔^{ごりんとう}や宝篋印塔^{ほうきょういんとう}、そして板碑^{いたび}は、中世に多く使われていた石製の供養塔^{くようとう}です。現代のお墓にも繋がる石造物の昔の姿で、供養した年月日や、供養された人の名前などが刻まれています。

出土した石造物は、ほとんどが破片だったり、一部分だけが発見されたりして、残念ながら完全な形に復元することはできません。人の手によって割られたあとで、穴に入れられたのだと考えられます。

なぜ、壊して埋める必要があったのでしょうか。15 世紀末ごろ、この場所に建っていた昔のお寺から松月院へと変わった前後に、赤塚地域に何か変化があったのかもしれませんが。板橋区^{とうろくぶんかざい}の中世の歴史を考えるうえで大事な資料なので、このたび「板橋区登録文化財（考古資料^{こうこしりょうざりょう}）」となりました。





これは中世の穴の調査の写真です。



穴からは多量の石塔の一部や板碑が発見されました。



これらを上から順に取り上げながら、実測を行い調査を進めます。